

平成21年3月10日

国土交通大臣 金子 一義 様

北海道自然保護連合	代表	寺島一男
富川北1丁目沙流川被害者の会	代表	中村正晴
十勝自然保護協会	会長	安藤御史
自然林再生ネットワーク	代表	前田菜穂子
ユウパニコザクラの会	会長	梅木久嗣
環境学習石城塾	代表	石城謙吉

国民の血税を浪費する危険な公共事業・平取ダム建設を止めアイヌ文化と生態系保全・イオル再生事業への転換提起に対する大臣の見解を求める要望書

拝啓 大臣におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成21年、本年は衆議院選挙を控えております。そこで以下につきまして国土交通大臣のご見解とご回答をいただきたく強く要望いたします。

大臣もご承知のことと存じますが、北海道沙流郡平取町字ニ風谷に平成10年4月から国の管理下で運用されているニ風谷ダムは違法判決が出されているダムであります。計画時、100年分にあたる堆砂量を推定堆砂量として国は550万立米と決めました。しかし、現実には10年を待たずしてその2倍以上が既に堆砂し、ダムは土砂に埋まり、治水機能が失われているどころか、決壊の危険すらあります。

そのニ風谷ダムよりも更に地質上堆砂が激しい沙流川支流である額平川と宿主別川の、よりによって危険な合流点に平取ダムは計画され、治水どころか非常に危険性が大きいと専門家からも指摘されております。さらにアイヌの聖地である、日高山系最高峰のポロシリ岳を源流とし、しかもニ風谷ダム裁判で指摘されたチノミシリ（祈りの場）の岩そのものにダムの堤体が建設されるという人類史に汚点を残す厚顔無恥の有様です。

平成20年はG8北海道洞爺湖サミットが開催、平取町においては世界先住民サミットが開催され、平取ダム建設予定地も世界の知れるところとなりました。

今、世界の潮流はダムより、環境を考えた川の生態系再生事業の推進、川資源の再生事業に取り組んでいます。沙流川のほとり平取町ニ風谷はアイヌの聖地として世界が認めるところであり、なぜ今、世界の輿論をかい、しかも非常に危険なダムを、国民の巨額な血税をつぎ込み、流域の住民を危険に曝すダムを建設しなければならないのか、我々国民は選挙を控え、大臣のご見解並びにご回答をいただきたく強く要請いたします。

是非大臣も土砂で埋まり危険なニ風谷ダムの現状を視察され、歴史に悔恨を残さぬよう賢明なご判断をいただきたくと強く要望いたします。 敬具

ご多忙の処恐縮では御座いますが、年度末の緊急時でありますので3月末日までに、ご見解を下記までご送付いただきたく、お願い申し上げます。